



氏名	今村 陽乃
所属 学科	工学部 電気電子システム工
学年	2年
留学先 留学期間	オルデンブルグ大学 2025/9/22~2026/2/20

留学レポート Study Abroad Report

●私生活

言語の面においては、ドイツの学生や教授は英語を喋れる人が多く、留学中に関わる人も他国からの留学生であることが多く会話は英語だったので、ドイツ語がほとんど喋れなくても生活に困ることがなかったです。スーパーなどのローカルの方はあまり英語に馴染みが無いようでしたが、なんとか最低限のコミュニケーションは取れました。食事は、たとえファストフード店でも外食すると日本の二倍以上の値段を余裕で越えてくるので、基本自炊でした。最初はパスタなど現地で調達できるもので頑張っていました。三か月目ぐらいからさすがに日本食が恋しくなったので日本食にも挑戦するようになりました。ミルヒ米という現地ではスイーツとして使われる種類のお米が、日本のお米に一番近かったのでそれをお鍋で炊いて食べていました。冷めたら美味しくなくなることに、お鍋で炊く経験がなかったので苦労しましたが、私の日本食欲を圧倒的に満たしてくれる存在でした。調味料は、少しお値段が高かったですが、電車で30分ほどの隣町にあるアジアスーパーで調達していました。平日のお昼ご飯は大学の食堂で済ませていました。大学の食堂は価格が飲食店と比べてリーズナブルな上に持ち帰りも可能だったので、夕食を自炊できなさそうな日は持ち帰ることができ、とてもありがたかったです。購買や自動販売機、コーヒーマシンなどの設備も充実していてとても快適でした。何も予定のない日は基本的に図書館に引きこもって勉強していたのですが、自習用の机も多く充電プラグや卓上ライトなど、これもまた快適でした。

●ドイツやヨーロッパ諸国について

街並みや建物が素敵でした。初日はすべての建物にときめいて、ずっと写真を撮っていました。やはりヨーロッパに行くと街並みがガラッと変わり、歩いているだけで楽しい！といった感じでした。ただ、後期に留学をしたため季節は冬だったのですが、気候はとにかく毎日曇り空でとても寒かったです。一月は特に雪がたくさん降り、最初はワクワクしましたが慣れてくるとバス遅延などの生活面で影響を受け不便だと感じるようになりました。ドイツ出身の友人曰く、その分ヨーロッパの北の方の国々はそのような暗い気分を晴らすためにクリスマスマーケットが盛んだそうです。実際に行ってみた感想ですが、キラキラしていて気持ちも明るくなり、クリスマスマーケットで定番の食べ物や飲み物も楽しめてとても素敵でした。私は自分が住んでいた町だけでなくドイツ国内のクリスマスマーケットや隣国にも旅行に行ってきたたくさんのクリスマスマーケットを回りました。クリスマスマーケットの本場なだけありクオリティが高く、クリスマスというイベントが大好きな私は毎回感動しました！クリスマス以外の時期以外にも

旅行をして、計 10 か国ほど行ったのですが、ヨーロッパは陸続きの国がほとんどなので旅行がしやすかったです。留学先の国だけでなく、同時に他の国にも行ってみたい人はヨーロッパがおすすめです。一概にヨーロッパといっても、実際その国に行ってみるとそれぞれの国で全く違う特徴があり自分の中でのその国の印象が良い意味でも悪い意味でも変わることがありました。

ちなみに先ほど冬のドイツの天気の話について述べましたが、ドイツ出身の友人曰く夏もそこまで天気が改善されるわけではないとのことでした。

●「留学」の感想

私の留学の目的はとにかく「自分の視野を広げること」でした。私はこの半年間でその目的を果たせたと思います。同じものを留学に対して求める方は続きの文章を読んでみてほしいです。

留学先で仲良くしていた友達はほとんどが留学生だったため、様々な国の友達が出来ました。日本での友達との会話とは一味違うなという印象でした。みんな自分の国・文化を誇りに思っていて、料理や言語、生活や家族についても色々な話を聞かせてくれました。その話は大体日本での自分の生活とは標準が全然異なり、興味深かったです。また、何事にも自分の意見を強く持っていてそれをはっきり主張する人が多かったです。そのため、友人同士で政治や社会問題について議論することも多々ありました。私はそのおかげで今まであまり興味のなかった世界の政治や社会問題について調べたりニュースで流れていたら目に留まるようになったりしました。私の性格や私の周りでそのような議論が繰り返られることが偶然に少ないだけかもしれないのですが、本当に良いきっかけだったなと思っています。留学で出会ったたくさんの人々によって私の視野は確実に広がりました。

また、留学先で友人とよく話すテーマの一つだったのが、日本は“closed country”だということでした。大学の授業で植民地や移民に関する授業を受けたのですが、私と一緒に授業を受けていた他の日本人にとってもこのテーマは馴染みがありませんでした。その理由を考えたときに、日本は“closed country”だからなのではないかと他国の友人に言われてハッとしました。まず、日本は島国であり他の国から離れている、また歴史的に見ても鎖国していた時代があるなど、地形的にも歴史的にも閉ざされた国だという風なイメージをその友人は感じたいです。たしかに、日本に住んでいる限りは英語が喋れなくても困ることが滅多にないです。その影響なのか、日本人の英語レベルの低さを感じることがありました。また、街中を歩いている人も大体の人が同じ肌・髪色をしています。多様性が少ないです。もちろん私はそれが悪いことだとは思わないですし、友人も指摘をしていたわけではないです。私はそのような特徴が日本の良さを守っているとも思います。ただ、私は他の世界も知りたいという好奇心を常に持っているので、この留学でその事実に気づけたことをありがたく思ったのでここに書きました。

留学で一番影響を受けたのは人生観でした。ほとんどの日本の大学生と同じように、留学前はバイトをしまくってそれで稼いだお金を交際費で使い切ったの繰り返しだったのですが、留学に行くことでそのループから一旦抜け出すことが出来たことの影響が大きかったです。心にも時間にも余裕ができたことによって、自分と向き合う時間を確保できました。留学先では友達がお金を浪費せずに自分の人生を充実させる方法に気づかせてくれました。ほとんどの日本人が送っている人生、具体的には大多数の人が大学まで進学して卒業後は就職するもしくは家庭をもって専業主婦になるという決まったルートがあるんだということについて話すと、それで幸せなの？それで「生きてる」って言えるの？と言われました。それについて考えたときに、何か自分の中で腑に落ちるものがありました。留学先で出会った人たちは自由に生きている人が多かったです。自由というのは金銭的な話では無く、自分のやりたいことをして生きているという意味です。様々な年齢・過去の人に出会いました。同じ大学の学生なのに多種多様の人生を歩んでいて、驚きました。人生観なんてものをまだまだ語れるような年齢では無いし経験は浅いのですが、この半年間で自分の人生観が変わったと思います。



図 1 Neues Rathaus (Hannover, Germany)



図 2 クリスマスマーケット(Vienna, Austria)



図 3 マッターホルン(Switzerland)

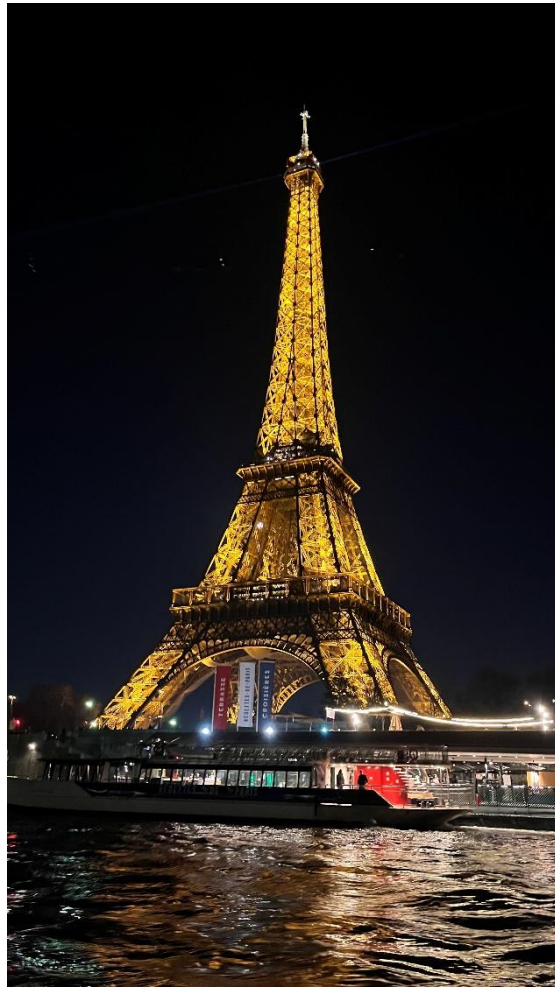


図 4 エッフェル塔(Paris, France)